

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102000		
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会		
事業所名	グループホームとちの木荘		
所在地	宇都宮市徳次郎町2632-1		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中に(宇都宮市北西部の田園地帯)グループホームが立地しており、この自然豊かな中で、心穏やかにその人らしく過ごしていただけるよう生活支援をさせていただいています。同一敷地内に特養、ケアハウス、デイサービス、ホームヘルプサービス事業所を併設する複合施設として、サービスの活用と緊急時対応ができます。

当ホームは、市北部の日光街道沿いの周辺を田畑に囲まれた自然環境豊かな場所に位置している。敷地内には同法人の特別養護老人ホームやケアハウス、認知症介護研修センター等の事業所が併設されており、緊急時や災害時等の協力体制も構築されている。ホームは、「こすもす・ひまわり・なのはな」と花の名前をつけた3ユニットが別棟で草花が植えられた中庭を囲むような形で配置されている。職員が日々の支援を行いながらつくりあげた理念を基に、利用者本位の快適な生活支援を地域や家族と連携しながら取り組んでおり、職員は入居者の尊厳に配慮しながら各々のペースに合わせた暮らしの支援に努めている。管理者や各ユニットリーダーを中心に入居者への支援方法検討や職員の育成等に力を入れており、入居者へのサービス向上に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、朝礼時に理念を介護員が読み上げて理念に基づいて日々ケアをしている。	利用者本位の快適な生活支援を地域や家族と連携しながら取り組んで行くことを理念に掲げている他、年度毎の重点目標も作成している。朝の申し送り時の唱和等により職員への周知を図っており、日々の支援に迷った時の指針として、理念を念頭においた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との付き合いは、敷地内にある特別養護老人ホームが現在地に新築移転した昭和59年からの付き合いもあり地域のお祭りや清掃等の行事に参加している。センター駐車場を開放して地域の方と一緒に盆踊りをしている。日常的な近所付き合いが難しい立地になっている。	周辺を田畑等に囲まれており、近隣住居は少ないという立地の負条件はあるが、近くの小中学校の行事や市民センターの催しに参加している他、毎年、併設施設と合同で開催している盆踊りには、自治会や婦人会からの参加もあり地域との交流を深めている。また、園芸や傾聴ボランティア等の受入れも行っており、入居者との交流に役立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの生活機能を地域住民に還元できるようH20年度まで共用型の認知症対応型通所介護事業を展開していたがPR不足等もありなかなか利用には結びつかなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター長に参加していただき意見及び情報交換によりご利用者の日々のケアに活かしている。	会議は年6回開催しており、ホームの取り組み状況等の報告を行い、参加者から意見や助言を出してもらい、運営に役立てている他、協力を要請できる場ともなっている。また、会議は木曜日と土曜日に曜日を交えて開催しており、家族の参加も得られるよう工夫している。	メンバーの固定化や議題選定等の課題もあることから、今後は消防署員や消防団、駐在所の警察官等に参加してもらい、防災や防犯について話をしてもらう等、議題に合わせたメンバー選定を行う等、更に会議が充実して行くような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思ったことは些細な事でも市に相談し助言をいただいている。逆に市からサービス向上につながる情報をいただくことがある。	地域包括支援センターとの連携が多い実情であるが、市担当者とは制度上の相談等で日頃から連絡を取っており、スプリンクラーの設置に関しての助言をもらう等、良好な関係を構築している。	市担当職員がホームに来所する機会が少なく、ホームの状況や課題等を把握してもらうことは困難だが、認知症の理解促進に向けた研修を市と共催して行う等、積極的に担当職員と関わる機会を持つ取り組みに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に年間サービス目標及び計画書を配布し、周知させている。利用者の気持ちを汲み取り個人ケアが提供できるよう取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成しており、リーダー会議等において入居者への支援方法の確認をしている。また、身体拘束や虐待防止等の外部研修に参加している他、他施設で起きた虐待事件についても話し合う機会を設ける等、日頃から身体拘束への注意を促している。	

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内に苦情・要望を受け付ける担当者を設置し、相談体制を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、全ての職員が理解できてない。制度が必要なご利用者には活用できるよう支援体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議、面会時等に十分に時間をとりご利用者、ご家族から話を伺い進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者は運営推進会議のメンバーになっており自由に参加できる。	面会時や運営推進会議等で家族が来所した際には積極的に話をする機会を設けており、意見や要望の確認に努めている。意見箱も設置しているが意見が寄せられた事は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1. 2回育成面接を実施している。毎朝の朝礼に管理者は出席し意見を聴く機会を持っている。また、それを実践に活かしている。	職員は管理者に毎月実施しているユニットリーダー会議やユニット別の棟会議の場等で意見や提案を表す機会が設けられている。入居者の重度化に伴い、手すりの取付けの提案が実現される等、職員からの意見や提案を取り上げ、運営の改善に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1. 2回育成面接を実施しそれぞれの勤務状況や就労意欲について確認する。代表者に報告・相談し改善できる所は改善するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人研修計画シートを作成しOJTを推進している。研修受講者による伝達研修の機会がある。		

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特定のグループホーム間で行事を通じて交流を行っている。栃木県認知症高齢者グループホーム協会に加入しており情報も交換している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時、ご利用者、ご家族から暮らしの中で困っていること、不安に思っていることを傾聴し受容している。また、解決策をも検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時、ご利用者、ご家族から暮らしの中で困っていること、不安に思っていることを傾聴し受容している。また、解決策をも検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接時、ご利用者、ご家族から健康状態、生活の様子、暮らしの中で困っている事を伺い、アセスメント等をしご利用者にとって最善の支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の方に対し分からない事や食事作りの時の味付けなどを聞きながら、それを取りご利用者と一緒に行っている。教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診等の外出の機会をご家族と多く持って頂くよう心がけまた、事業所の行事にもご家族に参加して頂けるよう案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、かかりつけの美容室や、床屋にかかっていたりご家族にお話している。	入居に伴い、馴染みの人や場所との関係の継続は難しくなってしまうが、家族からの情報や協力を得ながら、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話になかなか入っていけないご利用者に対し、職員が間に入り、他のご利用者とかかわりが持てるよう努めている。また、ご利用者同士お互い助け合い、協力して生活できるように間に入り支援している。		

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化で退居し受け入れ先がなかなか決まらないご利用者、ご家族に対して受け入れ先の情報を提供したり相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族来荘時等に、これまでの暮らしをお聞きし、続けて行きたい事等を伺い、提供できるように努めている。	家族にも協力を得ながら、入居者の生活歴や家族歴等をまとめた「生活史」を作成しており、これを基にホームにおける生活の支援への方策を得る等、入居者の思いをより把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、これまでどんな暮らしをしてきたのか把握した上でそれに近い暮らしが引き続きできるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士、申し送りノートを活用したり、連絡しあいながらお一人おひとり一日のご様子を記録に残し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会議等でケアプランの評価を行い、ご本人にとって何が問題となっているのか考えながら、最適に生活した頂く為のケアを検討し、計画書を作成している。	入居する際に面接を行い、入居判定委員会において介護方針について確認し、本人や家族からの要望を取り入れた1カ月程度の介護計画を立て、入居後の生活状況を考慮しながらそれらを見直している。計画は定期的にモニタリングを行い、達成度などを評価しながら、適宜修正を行っており、綿密な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録にご本人の話されたこと、介護員の接し方、又は言動等を記録し、次勤務に当たる職員に情報を提供している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	徐々にご利用者が重度化に進み、既存の浴槽では困難になってきている。併設施設の浴槽が借りられるよう併設施設の職員と検討した。		

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、活動に参加し交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院がご家族対応となっている。受診時、ご利用者の健康状態等を記した要約表を作成し要約表には、医師から通信欄を設けてお互いに連絡ができるよう工夫している。ご利用者が適切な医療を受けられるよう配慮している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診の際には家族に付添いをお願いしている。受診の際にはホーム独自に作成した「生活支援経過要約票」に入居者の健康状態等を記入し、医師に的確に心身状態を伝えている他、投薬の把握にも役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題のあるご利用者の状態を看護職員に適時報告し相談している。日常の健康管理、医療活用の支援をしている。看護職員不在の場合、特養の看護職員の協力を得られるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報は病院に伝え適切な医療を受けられるような配慮している。退院時、グループホームでの生活が円滑にできるようご家族、病院関係者から情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の進行状況をみながらご利用者、ご家族、かかりつけ医等に重度化した場合の支援方法について相談している。地域の関係者と共にチームで支援はできていない。	本人や家族の希望も踏まえ、できるがぎりホームでの支援を考えているが、ホームでは重度化に対応した造りになっていないため、重度化や終末期における支援が困難な状況にあることから、特養や医療機関へ移ることが多い状況にあり、看取りまでの支援は今後の課題となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し職員が周知できる、確認できる場所に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスと連携し消防訓練を月2回行っている。(1回目ケアハウス出火、2回目グループホーム出火)年1回センター全体で消防訓練を行っている。	災害時には敷地内のケアハウス職員と連携が図れるよう、合同での消防訓練を実施しており、夜間時を想定した訓練も行われている。スプリンクラーは本年度中の設置予定である。	災害時における消防団や地域住民との協力体制の構築へ向けた取り組みに期待したい。また、入居者数も多いことから大規模災害に備え、食料や水等の備蓄も検討されることを期待したい。

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に「年間サービス目標及び計画書」を配布し、自尊心プライバシーに配慮した支援を心掛けている。	職員は入居者への日々の声かけや支援方法を自主的に見直している他、ユニットリーダーによる指導も行われている。入浴介助において利用者が希望する場合は同性介助とする等、日常から入居者の尊厳に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分向き合えないような時もあるが、できる限り希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、改めてレクリエーションの時間を設けるのではなく、自然発生的に活動するなどお一人お一人のペースを大切にしている。ご利用者は思いの過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回移動理美容室が来るので、カットする方はその時にカットしている。また、馴染みの美容室がある方はそちらに行って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員もご利用者と同じものを一緒に食べている。献立は介護員が立て、調理の段階でアレンジを加えている。好き嫌いを配慮し、必要に応じて代替のメニューを提供している。調理、準備、片付けはご利用者と職員が一緒に行っている。	献立は食事委員会により、入居者の好み等も考慮しながら作成している。入居者は職員と共に食事の準備や片付けを行っており、食事は職員も一緒に同じ物を会話を楽しみながら食べている。行事の際にはお弁当を注文する等、変化を付けながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの食事のバランスを見ながら、足りない物は声掛けし食べて頂くよう支援している。例えば水分の少なめなご利用者には声掛けし飲んでもらったり、好きな飲み物、果物等で水分をとってもらおうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前、起床時に声掛けし自ら行ってもらう、ご自分でできない部分をお手伝いし、支援している。		

グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者にあった排泄パターンを理解し、ご利用者に必要な物(紙パンツ、尿取りパット)を使用し、声掛けながら気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の排泄パターンを把握することにより、適切な声かけによる誘導をし、トイレでの自立した排泄に取り組んでいる。要介護度が高い入居者もできるかぎりオムツの使用はせずに、職員の介助や夜間時等はポータブルトイレを利用することで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、運動、食物繊維摂取等働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	馴染みのある人との入浴、就寝前等ご利用者の入浴したい時間帯、ご利用者お一人おひとりの希望に合わせた支援をしている。	職員と入居者の1対1での入浴を基本としているが、仲の良い方と2人で入浴したり、必要に応じて洗身介助を行う等、柔軟に対応している。入浴時間は昼食後から夕方にかけて行なっているが、希望によっては夕食後の時間帯にも入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者お一人おひとりの生活パターン、一日の流れを把握し、その人にあった生活が送れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、きちんと服薬できるようにしえんしている。薬の変更があった時、は特に注意して症状の変化を観察している。又、病院からの処方箋にしっかり目を通し、どの様な薬なのか把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし、その人に合った役割が見つけられるよう支援している。例えば、調理、後片付け、洗濯物たたみ等の家事、ボランティアの協力を得て園芸活動、竹細工、編み物等支援している。市民センターを活用し、地域の文化祭に作品出品もしている。		



グループホームとちの木荘(こすもす棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望がある方については、機会が日常的に持てるように、日程調整を行っている。冬場、風邪の流行する時期以外は、なるべく外出できるようにしているが、希望がありその日に外出するという事はできない。普段行けないような所は要望があればご家族に報告し、できる限り希望に添えるよう支援している。	1日に1度は外に出る時間を設けており、天候や体調にもよるが敷地内の散歩は毎日行われている。中庭には草花が植えられ、ベンチが設置されている他、うさぎも飼われており、憩いの場となっている。また、定期的に公園や飲食店等にドライブでの外出も行われている。	重度化した入居者が多いユニットでは中々外出ができない課題もあるようだが、ユニット間の交流も兼ねて合同での外出等も検討しながら色々な場所により多く出かけられる機会を持てるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で預かっている。買い物などでお金を使用する場合は使えるよう支援している。ご利用者の能力にもよるが、支払い等は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からご家族、知人はの電話希望がある時は、介護員が電話をかけ話しをしてもらおう。又、手紙が来たときはご本人に見てもらい、返事が書ければ書いてもらおう。お手紙などお礼の電話もご利用者がかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然を取り入れた装飾をしている。(庭に咲いている草花を利用している。)	共用空間は木材を多用した暖かな空間に自然光がふんだんに取り込まれ、利用者の行事での写真や季節の花が飾られる等、入居者が安心して心地良く過ごすことができる空間となっている。リビングには畳のスペースに広めの掘りごたつが設けられ、リラックスして過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他に掘りごたつのある畳スペースや、ソファベッドのある談話室スペースが設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に自宅施設等で使っていた家具、寝具類等使い慣れた物を持ち込んでいます。安心して居心地良く過ごせている。	入居前の生活と違和感がないよう、本人が使い慣れた馴染みの物の持参を促しており、使い慣れた家具類や小物類が持込まれ、個性的で居心地の良い居室となっている。絨毯類の使用は利用者のつまずきや感染症予防のためにできるかぎり使用を控えてもらう等、本人及び家族の要望を尊重しながらも、安全面にも配慮した居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者、お一人おひとり「できる事」「分かること」を把握し、その力を活かして混乱、失敗を防ぎ自立した生活が送れるよう支援している。混乱、失敗を招くような時にはご本人から話しを伺い、原因、理由を探り検討している。		